

# 錦江湾みらい総合戦略の概要

## 基本理念

人々が親しみふれあう魅力ある錦江湾の創造

**戦略策定の意義**  
錦江湾は身近な存在だが、人々の理解は必ずしも高くなく、魅力や価値への理解を深めていく必要がある。また、地域活性化にとつて交流人口の拡大は重要な要素であるが、錦江湾は人々をひきつける様々な魅力や価値を有しており、それらを地域の財産としてとらえ、効果的に生かしていくことが求められている。このようなことから、自然や歴史・文化資源等に恵まれた錦江湾の積極的な活用を促進することにより、錦江湾やその周辺地域において、人々が誇りと愛着を持って、いきいきとした個性豊かな生活を営むことができるとともに、その魅力にひかれて国内外から多くの人々が訪れるような、うらおいと活力のある地域社会を形成していくために、この戦略を策定する。

**戦略策定の背景**  
近年、社会、経済情勢が変化する中で、地域がその活力を高めていくためには、地域固有の自然や歴史・文化等の各種資源に目を向け、これらを総合的に生かしながら、うらおいと活力のある地域社会を形成することがますます求められている。また、優れた地域資源のひとつであるウォーターフロントに期待される役割は多岐にわたっており、本県でも、「錦江湾ウォーターフロント基本構想」等に基づき、鹿屋市の高須や指宿市の摺ヶ浜など秩序あるウォーターフロントの整備が図られてきた。また、湾岸地域では、ウォーターフロントを活用した様々なイベントが開催されるとともに、ヨットやカヌー等をはじめとした海洋レクリエーションの普及もみられ、海と親しむ気運が次第に醸成されつつある。

## 戦略目標

海に開かれた質の高い生活圏の形成

錦江湾岸で仕事や居住する多くの人々が錦江湾を愛し、海に親しみながらいきいきとした生活を営むことは、錦江湾そのものの魅力を高めることにつながる。湾岸の地域は県人口のおよそ半数が居住する、産業・文化の集積地域であり、錦江湾の魅力を生かした、産業・文化・レクリエーション活動等が多彩に展開される質の高い生活圏の形成を目指す。

交流人口の拡大による地域活力の向上

錦江湾の自然、歴史、文化などの魅力を生かした観光保養・海洋レクリエーションや各種イベント、学術・文化等の幅広い交流を通じて交流人口の増大を図り湾岸地域の活力の向上を目指す。

錦江湾の優れた自然環境の保全と継承

桜島、開聞岳などの雄大な自然資源や広い静穏水域、深い水深と多様な生態などは、錦江湾を愛する多くの人々の共有財産であることから、この優れた自然環境を保全し、次代へと継承していくことを目指す。

## 戦略の展開方向

I

海洋レクリエーション活動の拡大

- 1 体験機会の拡大と活動の拠点づくり  
海レク体験教室等の開催、海レク指導者養成、海レク指導者派遣、錦江湾に精通した人材の発掘と活用、情報提供体制の整備、拠点マリナー、艇庫、上架施設小型船溜まりの整備
- 2 イベント等による交流人口の拡大  
既存イベントの拡充、全国規模イベントの誘致、海レクを組み合わせたイベント開催、リピーターを確保していくための相互の情報発信と愛好者相互の交流ネットワークの形成

II

子供たちの夢を育む体験学習の拠点づくり

- 1 海を良く知る子供達の育成  
環境学習資料の充実、小中の課外活動への海レク導入と指導者派遣、機材の貸与等の促進
- 2 海に親しむ子供達の育成  
湾内の島々を活用した海洋体験、野鳥観察体験、錦江湾臨海学校（海レクと環境）の開催促進

III

海辺のにぎわいとうらおいの創出

- 1 魅力ある海辺空間の整備  
賑わいの拠点づくり、大型観光船・国際マリナー等の海外に開かれた交流拠点づくり、スポーツ広場・公園緑地等の整備、人工海浜、湾岸プロムナードの形成、温泉等を生かした住宅地整備
- 2 自然環境に配慮した良好な景観の形成  
景観形成基本計画、錦江湾ウォーターフロント景観形成マニュアルを活用した湾岸景観の形成
- 3 利便性の向上と活用の促進  
アクセス整備、海上交通網の整備促進、帆船まつりや花火大会などイベント開催と情報発信、野外ステージ等の整備

IV

水産資源を生かした産業の振興と食文化の形成

- 1 環境に配慮した水産業の振興  
栽培漁業の推進、水質保全に配慮した養殖、水産技術センター整備、観光漁業の促進
- 2 水産資源を活用した食の拠点づくり  
古い料理法の復活等特色ある食文化の形成、シーフードフェアの開催、水産加工品製造体験

V

魅力ある観光・保養拠点の形成

- 1 海洋と湾岸の資源の活用  
海上遊覧船導入、大型観光船の寄港促進、ディナークルーズ促進、クルージングネットワーク、港湾施設の整備、体験型観光メニューの充実、歴史・文化資源等を生かした観光ルートづくり
- 2 イメージ戦略の展開と適切な情報提供体制の整備  
錦江湾の多様な魅力を生かした情報誌の発行、芸術・文化作品の募集、観光客の多様なニーズに対応した情報提供体制の整備

VI

学術的・文化的交流の促進

- 1 学術研究のネットワークづくり  
学会・シンポの開催、研究成果の情報発信
- 2 湾岸における文化活動の促進  
野外コンサート・ドライブインシアター等の文化活動の促進、海をテーマとした音楽会・美術展の開催

VII

未来に引き継ぐ自然環境の保全と活用

- 1 良好な水質と海辺環境の保全  
鹿児島湾ブルー計画推進、県環境基本計画や錦江湾WFに基づき自然に配慮した海岸整備
- 2 環境保全活動の促進  
一斉清掃、マナー向上PR、自然環境体験学習、ボランティア活動の促進